（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490700081		
法人名	社会福祉法人太陽の里		
事業所名	グループホームなごやか		
所在地	三重県松阪市垣鼻町1638－15		
自己評価作成日	令和1年10月1日	評価結果市町提出日	令和1年11月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2490700081-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和　元　年　10　月　18　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①外出支援
②納涼祭等の地域行事の取り組み
③医療機関との連携

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

敷地内にデイサービスセンターと隣接して建物があり、日当たりの良い庭や畑があり、季節の野菜が作られている。若い職員が多く、地域の青年団に所属して地域の大きなイベントとして200人規模の参加がある納涼祭を計画から実行の中心となり、利用者を含めて地域住民の楽しみの場を提供している。地域の清掃活動や夜回り活動にも取り組んでおり、年2回の防災訓練は地域住民と協力して行なっている。一人一人の生活ペースに合わせて様々な話題を提供することで、利用者の笑い声が絶えずほのぼのとしている。外食と外出に力を入れており、今年は鳥羽や志摩方面へ観光と海の幸を楽しみに出かけている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、出勤職員全員で理念の唱和を行い、再確認し共有、実践につなげている。	理念を唱和することで、理念に基づいた実践を意識して行うように心がけており、「やさしく寄り添いなごやかに」支援をする中で言葉かけを重視して職員間で注意喚起している。	注意の中で気づきの質を高めて職員の意識の統一を目指して、理念に沿った実践が出来るように更に期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の自治会の役員会に出席し、溝掃除や草刈りに参加している。年に二回の防災訓練を自治会と共に主になって行っている。納涼祭では一般開放し、自治会や老人会と協力し地域ぐるみで行っている。	地域の自治会の青年部に所属して納涼祭の企画・運営の中心となり、地域住民と協力して開催している。掃除や草刈りと夏冬休みの夜間見守りにも参加して地域の力となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一度、認知症カフェとして「SUNカフェ」を実施。認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバンメイトととして、地域の方々に認知症の理解や支援を深められるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、市、包括、家族等に入居者の状態や活動報告を行い、様々な意見を頂き、参考にしサービス向上に生かしている。	年6回デイサービスと合同で開催されており、地元警察の出席もあり地域の防犯などの情報を得る機会となっている。地域住民の出席要請を続けた結果、次回より民生委員の出席が得られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	少しでも疑問に思ったことや質問があれば積極的に連絡を取って相談など行い、会議だけの関係にならないように努めている。	届出書類の提出で出向いたり、制度等についてその都度連絡をとり事業所の運営に取り組んでいる。地域密着型等施設部会にも参加しており、行事開催に協力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体の勉強会や、身体拘束廃止委員会を設置している。会議の際は身体拘束を行っていないことを確認し、委員を中心に身体拘束をしないケアに努めている。	研修会やグループ全体での勉強会を行ない、職員の意識付けをしている。利用者の離席や帰宅願望時には特に注意をはらい、職員間で情報共有して身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全体の勉強会や研修で理解を深め、無意識に虐待が行われていないか皆で注意し業務を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体の勉強会や研修で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が不安に思っているところに関しては納得して頂けるよう疑問点等をお聞きし、丁寧な説明を心掛け、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会のアンケート、面会時や電話、運営推進会議等で気軽に意見を伺えるように配慮し、意見を頂いた時はすぐに反映している。	家族アンケートや家族会開催、運営推進会議などで意見を聞く機会を持っているが、面会時に家族が職員に話をする機会が多く、その都度要望や意見を聞いた際には情報共有して対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝礼等、その都度、職員の意見を聞き、反映させている。	理事長や施設長に相談や意見が言える職場環境ができているので、職員は常に意見・要望を伝えることができている。意見や要望を取り上げ検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長が定期的に職員面談を行い、人事考課も行って職員の気持ちを把握し整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人事研修課を設置し、各職員に必要な法人内外の研修に積極的に参加できるよう計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学等の交流を図れる研修を企画し、互いが交流や切磋琢磨できるような環境作りをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシート・実調報告書を元に、本人の不安や要望の把握に努め、情報収集し、本人がより安心して過ごせるよう信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を理解し、職員間で対応策を検討し、それに対する家族の意向を取り入れている。面会時等には、報告や意見交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から情報収集し、今必要としている支援内容を把握し、実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除等の家事を教えて頂いたり、家庭的なことで共に洗濯物たたみやお盆拭き等、実施することが可能なことは行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に何かあった時は先ずは家族に相談し、共に病院に行き病状を聞いたり、話し合いを行っている。又月1度の近況報告でその経緯を伝え、家族と共に本人の生活を支えている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の顔馴染みの方が面会に来て頂いたり、隣接するデイのお知り合いの方と交流している。	デイサービス利用がきっかけで入居された方は、隣接するデイサービスに職員と一緒に出かけて馴染みの方と顔を合わす機会を持っている。また、地域と合同の納涼祭が地元の馴染みのある方との交流の場にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の位置を気の合う入居者同士にしたり、職員と関わりを持ちやすいように配慮している。又、レクや普段の何気ない会話で交流をもてるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば相談に乗れるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちになって、意識して思いの把握に努めたり、発語の少ない方も本人の気持ちになってサービスを提供している。	職員は利用者2～3名を担当制で受け持ち、より深く状況を把握して日誌や会議で情報共有している。目線の高さを合わせて、利用者の思いが引き出されるように穏やかな口調で話しかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート等で把握をし、家族との面談で把握している。入居されてからは、生活の中で本人の言動や行動から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や職員からの意見を聞きながら申し送りにて現状を把握できるよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き、担当職員にはアセスメントシートを書いてもらう事で現状に即した介護計画を作成している。	事前にケアマネより本人や家族に意向確認して、」毎月のカンファレンスで3名ずつのアセスメント・モニタリング・評価を行い、担当者会議を開催して3か月ごとにプランの見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートを利用している。しっかり記録に残すことで職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の希望に臨機応変に対応し柔軟な支援を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方にあったサービスを提供できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者希望の主治医と関係を築き、定期的に受診することで家族様に安心して頂けるような医療を受けられるようにしている。	1名がかかりつけ医へ受診、他の方は2週間に1回協力医の訪問診療を受けている。24時間体制で協力医に相談ができるため、夜間も安心して過ごせている。他科へは職員が付き添って受診後に家族へ状況報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か異常があれば苑の看護師、各主治医と連携し、適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が付き添い、介護サマリー等での情報交換が素早くできるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族との話し合いを十分に行い、家族の意向を踏まえた上で、主治医と連携をとりながら取り組んでいる。	事業所として看取りは実施しない方針で、入居時に本人・家族に説明をされている。状態の変化に伴い家族との話し合いを早期より実施し、主治医と連携して意向に沿った対応をしている。直近では1名が医療機関へ、1名が特別養護老人ホームへ移り退居となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて救急救命訓練を行い、急変時の対応など消防職員や看護師と共に行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者・自治会・住民の方々と共に年2回の防災訓練を行っている。その際、消防署の協力で避難経路の確認や、地震や濃煙体験、消火活動の訓練をしている。	事業所が主体となり年2回防災訓練を、地域域住民と協力して災害訓練と夜間想定訓練を実施している。避難経路や避難時の車いすの使い方を地域住民に知ってもらう機会となり、協力体制を高めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドやプライバシーに注意し、その方にあった話し方や接し方で対応するように気を付けている。	さん付けで声をかけてさりげなく支援をしている。テレビのニュースを一緒に観ながら、本人に分かりやすく言葉を選びながら説明を加えて、馴染みある話し方をして接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で希望や思いをくみ取り、自己決定できるよう働き促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も無理強いせず、その方のペースで生活できるようにしている。行きたいところがあれば最大限、希望に沿えるよう支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みに合わせ、その方らしい季節に合った着こなしをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にはメニューをボードに書いて頂いたり、食にが楽しみになるよう出来る事を手伝っていただいている。また、手伝いが出来ない方には味見などをして頂いている。	キッチンからの食事作りの音や匂いが食欲をそそっている。利用者が下ごしらえしたモヤシも昼食のメニューとなり、職員と共に食事作りを楽しんでいる。行事食や季節の献立、誕生日には本人の嗜好を考えたメニューとなっており楽しみにつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は記録に残し、1人ひとりの摂取量や形態に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨ける方は磨いて頂き、その後職員が確認している。義歯の洗浄は決まった日に洗浄剤を使用したり、希望に合わせ毎日する方も見える。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け・誘導・見守りを行い、常にチェック表に記録している。その中で、1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に努めている。	個々の排泄リズムをつかんでおり、なるべくトイレで排泄できるよう本人の行動に合わせて声かけ誘導して介助している。便秘にならないようチェック表で管理して緩下剤等の対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送りや各職員の出勤時に排便の有無を確認している。便が出にくい方は水分摂取に気を付けたりヨーグルトを食べて頂いたり、身体を動かすよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いはせず、1人ひとりの希望の時間や気分を優先し、入浴剤を使用したり会話を楽しむことで入浴を楽しんで頂いている。	1対1で話せるコミュニケーションの場とも考えて、本人のペースで入浴を楽しんでもらっている。週2～3回状態に応じた入浴方法で、安全に安心して入浴ができるよう介助しており、二人対応で行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで過ごされる方がほとんどだが、体調や状態に応じて無理せず少し休んで頂き、空調にもそれぞれ注意する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーは個人ファイルに綴じてあり、把握できるようになっている。服薬は、介助時に職員2人によるダブルチェックを行い、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や外食、おやつ等、その方に応じた楽しみを提供させて頂いている。また、季節ごとの行事や外出で楽しく生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出や外食へ行ったり、気の合うグループで外出したりと、希望に沿った外出支援を毎月積極的に行っている。	天気の良い日は職員と敷地内の散歩を楽しんだり、家族と外出してランチを楽しんでいる。月1回は外食や外出の機会を計画して花見や博物館等、様々なところへ出かけている。最近では車で鳥羽や志摩方面の水族館へ出かけ、海の幸を食する機会を持ち、気分転換ができている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は基本的に預り金から職員が支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう空調や日光に気を配り、生花や写真、ハロウィンやクリスマス等季節によって飾り付けも変え、認知症であっても季節がわかるよう季節感のある環境づくりに努めている。	天井は高く、明るい空間が広がる中で季節感のある飾り付けがあり、目を楽しませている。壁には職員と共に作った貼り絵などの作品、行事や外出時の写真が飾られている。手作りの日めくりカレンダーがかけてあり、日にちの認識ができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや台所近くにテーブルを設置し、1人で過ごしたり、仲の良い方たちとくつろいだり、自由に過ごすことができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具などを持ってきて頂き、なるべく自宅に近い馴染みのあるもので居心地の良い環境作りに努めている。	居室は洗面台があり、自室で整容もできる。家族と共に使いやすい家具を持ち込まれ、タンスの上には馴染みの装飾品が並べられて心地よく整えられている。昼食後は居室で一人の時間を楽しむ姿も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、風呂等名札で場所を分かり易く大きく表示し間違って入らないよう気を付けている。又施設内には手すりがあり、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		